

東京医科大学図書館の新型コロナウイルス感染症対策

川島恵里香*

東京医科大学図書館

I. はじめに

東京医科大学図書館（以下、当館）は昭和21（1946）年に設置され、西新宿キャンパスの本館、新宿キャンパスにある分館および分館看護（以下、分館）、茨城医療センター分館（以下、茨城分館）、八王子医療センター分館（以下、八王子分館）の4館で構成されている。通常は各図書館で利用説明を受けて登録することで、開館時間外でも館内利用が可能となっている。

新型インフルエンザ等対策特別措置法による東京都の緊急事態宣言は2020年4月7日に発令された。4月16日には拡大され、全国が発令対象範囲となった。東京都に対する緊急事態宣言は5月25日に解除されたが、ウィズ（with）コロナと呼ばれる状況となった。当館の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行への対応を報告する。

II. 感染症拡大防止対策の概要

大学キャンパスや西新宿キャンパスの大学病院では、1月中旬頃から集会や面会の禁止等の対応を取り始めていた。2月7日に大学病院の臨床講堂において「新型コロナウイルス院内対応方法について」として、初めてCOVID-19に関する正式な院内説明会が行われた。その後はオンライン開催となり、現在も月に1～2回開催されている。

クラブ活動等の学生課外活動については、2月29日から禁止された。各課所属長が参列していた3月7日の卒業式は縮小しての挙行となり、図書館からの参加は不要との連絡があった。新宿キャンパスは3月27日より入構が制限された。大学の入学式、各キャンパス職員の入職式は中止となり、例年、年度初めに実施していた多くのオリエンテーションも中止となった。図書館は4月7

日に学長から全館休館指示がされた。

学生の新年度の授業・実習開始はゴールデンウィーク明けに予定されたが、6月1日以降に延期された。

図書館は6月1日の学事再開に合わせて、図書館サービスを再開した。

III. 緊急事態宣言中

1. 休館中の図書館の対応

新宿キャンパス閉鎖と同時に職員も在宅勤務が原則となったが、この時点ではまだ図書館サービスは継続していた。4月7日の全館休館の指示により、緊急事態宣言が発令された都内（本館、分館、八王子分館）のみならず、茨城分館も共通の対応をとることとなった。8日からは時間外利用も、館内が把握できないことから中止となり、完全閉館となった。分館職員は大学本部の指示により自宅待機となり、それ以外のキャンパスは最小限の人数での交代勤務（本館は常時3人、茨城分館、八王子分館は常時1人体制）が命じられた。

完全閉館中はブックポストへの資料返却のみで、一切のサービスを停止した。電子ジャーナル閲覧やデータベース利用等については、通常通り利用できていたため、文献複写Web申込システムより文献複写の申込は可能だった。しかし、Webに申し込まれた情報は随時対応していたが、利用者に渡すことができなかった。4月に入ってから、新臨床研修医や新入看護師、コメディカルが入職し、館内での文献複写以外にブラウジング利用の希望もあったが、使用後の資料の扱いについての方針が定まらず、利用を断らざるを得なかった。しかし、どうしても少しだけ資料を確認したい、複写物を受け取りたいという希望者には、都度対応した。

相互貸借サービス（ILL）は、可能な範囲で通常対応していた。全国の他の図書館も同様の状態であったと予想されるが、複写依頼は絶えなかった。

*Erika KAWASHIMA : 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1.
erica-b@tokyo-med.ac.jp (2020年8月20日 受理)

2. 大学病院外来支援

緊急事態宣言が発令された際に、家庭の事情等で出勤不可能な職員の発生が予想された。西新宿キャンパスでは大学病院（以下、病院）の外来担当看護師が不足した場合、病院事務職員だけではなく、大学職員も病院の業務支援を示唆された。幸いなことに看護師不足は回避されたが、外来患者の診察前の検温を徹底するために、各課交代で図書館職員も1日1回1時間程度、来院者の検温に協力した。

病院の診療体制で外来診療が制限されていたため、病院外来は比較的落ち着いており、COVID-19対応の苦勞、混乱を感じさせることはなかった。病院スタッフの尽力に敬服している。

IV. 図書館サービスの再開

1. 開館準備

6月1日からの図書館サービスの再開が決定したが、実習や演習のない学生のキャンパスへの入構禁止措置は継続した。図書館も、通常の業務再開は感染拡大防止の点からみても問題が多いことから、サービスは当面の間、貸出・返却と文献申込の受付・複写・引渡しとし、滞在利用は控えさせることとした。

開館時間は職員の就業時間帯とし、終業30分前には閉館する縮小開館となった（表1）。閲覧机、パソコン（以下、PC）等の消毒時間を設けること、長時間の滞在防止、手指消毒用アルコールの出入口への設置、マスク着用とsocial distancingの確保、換気について館長を通じて学長から指導された。

2. 本館（西新宿キャンパス）

1) カウンター対応

貸出は図書館ポータルサービスMy Pageで資料を予約のうえ来館して貸出手続きを取ることを促し、貸出処理は極力自動貸出機の利用を推奨している。返却資料は3日程度ブックトラックに別置してから書架に排架している¹⁾。文献複写の申し込みには、できるだけ文献複写Web申込システムの利用を推奨し、メール等を活用してこまめに連絡することで、受け渡し時の利用者との接触が最小限になるように努めている。

閲覧席、PC席については、密集や密接しての利用を防止するため空席を設けた（写真1）。長時間の利用を防ぐため、利用時間を午前・午後で区切り、合間に30分程度の清掃時間を設けて継続しての滞在はできないようにした。清掃時には、机、PC等はエタノールシート

を使った拭掃除消毒をしている。

入退館の際は出入口に手指消毒用アルコールを設置し、手洗いおよび手指消毒、マスク着用の徹底を掲示している。出入口ドアは通常は入退館管理システムがあり、個人のIDを使うことでドアの鍵を解除して入退館を可能にしているが、ドアノブ等への接触防止と換気のために常時開放とした。出入口はドア1枚分の幅となっているため、特に動線は設けていない。利用者には、出入口ドアは開放されているが、感染者が発生した場合の追跡調査のため、入退館管理システムで入退館の記録を残すように案内し、さらに館内放送で、マスク着用、手指消毒、入退館記録への協力、長時間滞在は控えるように1日数回アナウンスしている。

2) 利用者の反応

3～7月の開館時間の来館者数では、6～7月は4分の1から5分の1程度に減少した（表2）。館内での滞在利用は例年、夏季休業中は学生の自習利用が多かったが、

表1. 開館時間

通常時	平日	土曜日 (1, 3, 5週)	時間外利用
本館	8:30-19:00	8:30-17:00	24時間
分館	9:00-17:00	9:00-13:00	17:00-22:00 7:00-9:00
茨城分館	9:00-17:00	9:00-13:00	24時間
八王子分館	9:00-17:00	9:00-13:00	24時間

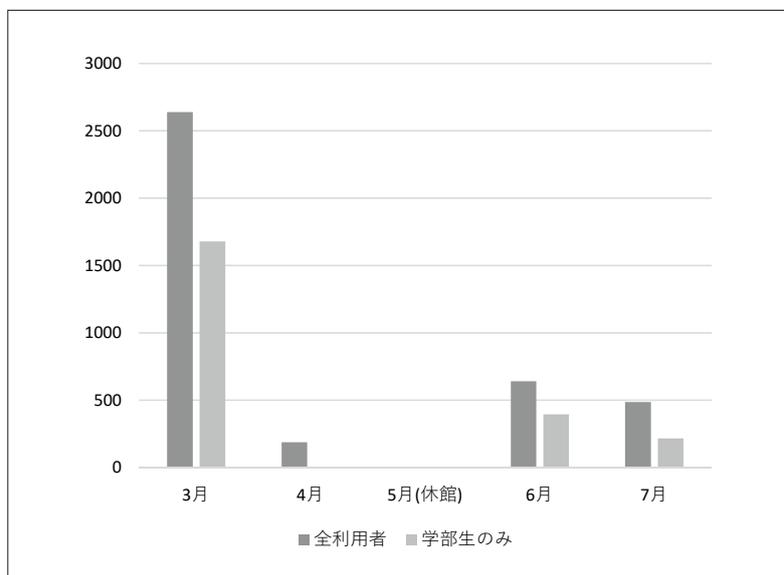
コロナ対応	平日	土曜日 (1, 3, 5週)	時間外利用
本館	9:00-16:30	9:00-12:30	不可
分館	9:00-16:30	9:00-12:30	不可
茨城分館	9:00-16:30	9:00-12:30	不可
八王子分館	9:00-16:30	9:00-12:30	不可



写真1. 本館閲覧室

表2. 開館時間利用者の推移（本館）

2020年	3月	4月	5月 (休館)	6月	7月
全利用者	2640	189	0	642	487
学部生のみ	1680	1	0	395	218



授業以外の入構禁止が原則となっており、その他の利用者も長時間滞在は控えるように促しているため、密集は発生していない。

館内の消毒清掃時間を設けるため、閉館時間を繰り上げており、利用者の中には仕事が終わるころには図書館が閉まっているという状況で肩を落とす方もいる。しかし「困るけど仕方ない」と、理解を示して短縮開館等の利用制限に対する大きなクレームは届いていない。

また、当館では返却された資料だけでなく、手に取った資料も3日隔離しており、「そこまでしているのか」と驚かれたこともあった。

3. 分館（新宿キャンパス）

新宿キャンパスでは3月26日には医学科、看護学科共に4月の授業および実習開始の延期が決定し、同時に学生向けオリエンテーションはすべて中止となった。4月6日よりキャンパスは閉鎖となり、分館の職員は大学本部の指示により自宅待機（休暇扱い）となった。

大学本部の指示が改まり、4月20日から分館職員は半数を在宅勤務とする交代出勤となった。自宅待機からそのまま交代勤務となり、当初は職員同士の直接のやり

取りもままならなかったが、メールとSlackを活用し、Zoomで学内での会議にも参加する等、在宅勤務時でも円滑に業務ができるようコミュニケーション手段を確立し、積極的に情報共有に努めた。

4月下旬頃から、在宅で授業準備や研究活動を行っていた教職員からの、図書館資料の利用について等の問い合わせが増加した。特に、オンライン授業で使用する資料の作成で蔵書を確認したいとの要望があり、その際は来館時間を指定し、入館時にマスク着用を促す、手指消毒を行う等の対策をとった上で対応した。

6月1日に学事が再開されたが、基本的にオンラインでの授業となり、学生の入構制限は継続された。履修カリキュラムの必修科目のために、学生向けポータルサイトに図書館のデータベースの使い方、メールを用いた学生向け文献申込方法を掲載し、図書館に来館しなくても利用可能なサービスの提供を開始した。

学生の入構制限はその後、7月1日に解除された。引き続きオンラインでの授業となったが、試験や演習で登校する学生も増えた。分館では、学生の館内での長時間の滞在や密集しての着席を防ぐため、大学学務課と協議して、自習希望者には大教室を開放して利用させること

とし、図書館利用は館内資料の検索、閲覧と複写のみ可能とした。

4. 茨城医療センター分館

茨城医療センターは、県南地区の中核病院として、綿密な感染予防対策を施したうえで、初期のCOVID-19患者に病床を提供し、感染症と対峙してきた。

茨城分館も、他キャンパス図書館同様、4月7日をもって休館としたが、当初は感染状況の地域差があったことから休館に対して疑問視する利用者もあり、他キャンパスとの温度差を感じたが、時間の経過と共に沈静化した。茨城分館は2人体制のため1日交代での勤務となったが、スムーズな連携で、特に業務に支障はなかった。逆に在宅勤務では、時間をかけて単行本の選書に専念したり、普段なかなか手が出せないような原簿の整理をしたり有効に時間を使うことができた。6月1日から再開となったが、開館時間の短縮、閉館後の時間外利用停止は現在も続いている。開館時間の変更に戸惑う利用者も見受けられたが、全て感染拡大防止のためと理解を求めている。

館内対策としては、利用者の感染リスクを最小限に抑えるため、換気やPCの除菌を行い、マスク着用の徹底、social distancingの確保を促し、カウンターには手指消毒用アルコールと飛沫防止用のアクリル板を設置した。資料の返却はなるべくブックポストの利用を促し、返却された資料は3日間別置してから排架し、複写物の受け渡しは院内のメールボックスを利用する等、利用者との対面接触を最小限にするよう取り組んでいる。また、COVID-19に関する資料の展示等にも努めている。

5. 八王子医療センター分館

八王子医療センターは第二種感染症指定医療機関であり、患者の受入れも早い段階から行われてきた。施設全体としてもマスク着用、手指消毒の徹底、換気的重要性等が現在でも施設内放送を通じて頻りに呼びかけられている。

館内の感染対策はおおむね他キャンパスの図書館と同様であるが、八王子分館の利用者は教職員がメインという特性上、特に手指消毒に関しては消毒剤を常に持ち歩いており、率先して実行されている。

図書館の情報提供の観点から振り返ってみると、3月頃からCOVID-19関係の文献を探す利用者が目につき始め、情報提供の必要性は感じていた。4月7日から閉館期間に入ったが、6月1日の開館に向け、COVID-19を

含めた感染症や感染予防に関する資料を集めた特設コーナーを用意した。当初は特に看護師向けの資料が少なく収集に苦慮したが、その後は特集を組む雑誌も出てきたため、コーナーの内容も少しずつアップデートしている。

6. 医療情報サロン（患者図書室）

病院9階に設置されている医療情報サロン（以下、サロン）は大学組織の当館とは異なり、病院長直轄の別組織に属し、スタッフは委託されている。病院の方針によりCOVID-19感染拡大防止の観点から、4月9日より一時閉鎖とした。その間、完全休室状態となったが、東京都と病院内の感染状況を踏まえ、サロン運営会議責任者による許可のもと7月1日から再開となった。

再開にあたり、施設主管の病院総務課と図書館とで運営にあたっての方針等を確認する機会を設けた。病院総務課の病院感染制御部による指導内容と、図書館で実施している感染防止対策等を照らし合わせ、サロン再開の準備をした。

カウンターには飛沫防止用にビニールカーテンを設置し、出入口と室内3か所に手指消毒用アルコールを設置、入室時には必ず手指消毒とマスク着用を促した。密集・密接を避けるため、座席は空席を設け従来の半数に抑え、入室者数も制限することとした。スタッフは、利用者が触れた箇所はその都度消毒、拭掃除を行い2時間ごとに全体の清掃作業も実施することとした。

資料の利用については室内閲覧とスタッフによる複写提供のみとなっており、貸出等のサービスは提供していない。利用者には資料に触れる前と戻した後に必ず手指消毒をしてもらう等、感染防止にご協力をいただきながら運営している（写真2）。



写真2. 医療情報サロン

V. おわりに

カウンターでの対面用飛沫防止や複写料金の遣り取り等での接触感染予防対策の検討を始めた頃は、必要な物品やその類似品すら不足していた。特に消毒用アルコールは病院が優先され、ようやく供給が安定したところである。

また、例年は新年度に多くのオリエンテーションが開催されており、そこで図書館利用に関する説明が行われていたが、ほとんどのオリエンテーションが中止となり、その機会が失われた。中止とならなかった説明会は、密集を防ぐため少人数で複数回開催したり、オンライン上でアクセス可能な説明用の資料を作成したり、その都度対応した。

COVID-19への対応をした図書館サービスの在り方について、多くのサイト²⁾⁻⁴⁾を参考にしたが、いまだ正解はなく、しばらくはこの状況が続くと考えている。

参考

- 1) イタリア図書館協会 (AIB), 新型コロナウイルス感染拡大下における資料の取扱や図書館空間の管理に関する文献レビュー・推奨事項を公表. [internet]. カレントアウェアネス-R. 2020年5月1日. <https://current.ndl.go.jp/node/40887> [accessed 2020-08-20]
- 2) 感染症拡大の状況下において図書館資料の衛生状態を保つ方法 (記事紹介). [internet]. カレントアウェアネス-R. 2020年4月1日. <https://current.ndl.go.jp/node/40668> [accessed 2020-08-20]
- 3) コロナウイルスの感染拡大への対応における図書館のための重要な情報源 (日本語訳). 2020年5月1日. [internet]. https://docs.google.com/document/d/1ahM1nc674qbDzCc28HXUk6eplqfNHQK_MIXQMksAnBA/mobilebasic [accessed 2020-08-20]
- 4) 日本図書館協会. 図書館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインについて [internet]. http://www.jla.or.jp/home/news_list/tabid/83/Default.aspx?itemid=5307 [accessed 2020-08-20]